平成３０年　１月２９日

佐伯市長　田中　利明　様

佐伯市総合計画審議会
会　長　谷川　憲一

第２次佐伯市総合計画について（答申）

平成２９年１２月１３日付け佐秘政第１５８号で諮問のあった第２次佐伯市総合計画について、「第２次佐伯市総合計画（素案）」を基に審議した結果、下記の意見を付して総括的に妥当と認めます。

なお、意見については、今後の検討を行うとともに、第２次佐伯市総合計画策定に当たり、できる限り反映されることを望みます。

記

１　自然・生活環境分野

（１）　エコパークに科学館を設置してはどうか。(P13)

（２）　エコパークは自然共生の場になると思うので、ハードよりも、ソフト面の充実を先行して行っていただきたい。そこから自然に対する意識を高めてもらいたい。(P13)

（３）　消防団を引退した高齢者を中心にしたOB団のようなものを組織しては良いのではないか。(P13)

（４）　保育間伐について、森林組合は、保育間伐はやめて、循環型林業に取り組んでいる。この辺の表現を変えたらどうか。(P13、P28)

（５）　災害に強いまちづくりについて、震災時の津波被害は沿岸部が多い。１次避難場所は整備されているが、山間部等の２次避難場所の整備も触れてほしい。(P13)

（６）　災害発生時に一番後回しになりがちなのは福祉避難所だと思う。場所の確保が第一条件になると思うので、県と協力して整備を進めてほしい。(素案P34)

（７）　水害などに対して、佐伯市の民有林の保有率や放置されている民有林の割合はどういったものになっているのか。民有林を森林組合で活用することのできる状況を作っていただきたい。(素案P34)

（８）　「森林の荒廃や河川整備等による水質の変化により、海に運ばれる栄養分も減少しています」との記述があるが、栄養分が減少しているという事実があるのか。あるとすれば、どの様な栄養分が減少しているのでしょうか。(P27)

（９）　源流部に環境保全のモデル的な森林を整備する取組が必要ではないか。水源涵養、水質保全のための森林の整備・保全は重要である。源流部にある市有林等を「水源の森」として指定・選定し、モデル的な森林（オーストラリア）不伐の森、長伐期の森、混交林等）として整備・管理し、環境保全に対する市の意気込みを示すべきではないでしょうか。(森林環境税等の活用も考えられる)(P28)

(10)　基準値（2016 年度）　０haとなっているが、全く間伐が実施されなかったということでしょうか。疑問です。(P28)

(11)　災害時の避難所に山間部の空き家を活用できないか。山間部と海岸部の地区間で協力協定を締結したらよいのではないか。(P35)

(12)　犬猫の殺処分の減少を進めるべきではないか。(P29)

2　生活基盤分野

（1）　水道の整備の目標値が老朽化した鋳鉄管の更新率のみとなっている。簡易水道と簡易水道の統合を追記してもらいたい。(P37)

（2）　道路ネットワークの整備について、東九州自動車道、中九州横断道路を臼杵市起点としてつなげることができないか。(P14)

（3）　コミュニティバスについて、バス停や移動経路等についても再検討してもらいたい。(P41)

3　保健医療福祉分野

（1）　佐伯准看護学院の移転支援などについて、正看のコースの設立も行ってもらいたい。進学先の創発を行い、学生の溢れるまちにしてもらいたい。(P15)

（2）　まず大人が魅力的になる必要があると思う。高齢者が魅力的な人間になることで、こどもの育成にもつながると思う。その中で本市の自殺率が全国平均を上回るという文言がある。(P44) 60 歳から上の世代が面白いと思える佐伯づくりをしたら、自ずと子どもが集まるのではないか。

（3）　大分県は里親率が高い（30%程度)。国から里親委託率 70%を目指すよう指針が設定されたが、現状では不可能なので、市の協力があれば、目標値に近づけると思う。人口増に加え、佐伯を第２のふるさととしてもらいたい。

（4）　福祉分野は人材不足が深刻な問題。産業分野では、外国人技能実習生等の取組もあがっているが、福祉分野に対しての育成や人集めも検討していただきたい。

（5）　女性の就業率が上がっているが、子育て世代の女性を雇用する際に最も難しいのは、子どもが病気になったときである。そういった際に子どもの面倒を見てもらうことのできるシステムの早期確立を行政にお願いしたい。加えて、保育園に通う子どもはお昼に薬を飲むことができず、それを踏まえたうえで薬を処方する必要があり、制限が発生してしまう。そういった状況を改善できるよう医療と行政の連携が必要だと感じる。(P48)

4　産業振興分野

（1）　水田農業の活性化を担っているのは農業法人であり、集落営農組織のみでの発展は限界を感じており、実際に市も農業法人の運営に力を入れていると感じる。その旨の文言を記載しないのか。(P56)

（2）　農林水産業の人材不足にシルバー人材を利用することはできないのか。

（3）　循環型林業という文言を入れたらどうか。(P60)

（4）　ふるさと納税について、他県は積極的な運用と成果を出している。体験型ふるさと納税などを行うことはできないのか。ただし、それを世話するため、民泊を実施する体力のある人間の育成が必要。(P17)

（5）　民泊については、修学旅行生を対象に行っている様子だが、もっと活発にできればと思う。(P18) グリーンツーリズム・ブルーツーリズムを利用しようとしている人間（ツーリズムに関わる人達）の知識の習得、コースの整理やレベルアップが必要と思う。（統一的な行程の設定等）

（6）　佐伯市は情報がないため訪問客が少ない。情報発信を強化していくことが必須。観光施設に関する詳細な情報を発信する専門員を生むことが必要と感じる。(P18)
SNS で情報発信を行うための講習会を行ってほしい。写真等を有効活用することができない。

（7）　竹田市は観光施設の情報が充実している。団体よりも少人数での観光が増えていると感じるので、そういった方向けの情報の整備を行ってもらいたい。※スマートホンのアプリを活用（P18）

（8）　私立大学側も就職協定を結びたいと行動を行っているが、現実は厳しい様子であると聞いている。外にでた学生を地元に戻すためには、積極的な県への要望を進めてもらいたい。

（9）　佐伯を出た若い人が「佐伯に帰りたい」というまちづくりをしてもらいたい。地元の子は地元で育て、佐伯を支えてほしい。

(10)　林道作業道の目標値がない。林業経営効率化のためには、林道作業道開設は不可欠。目標値がないということは、取り組む意思がないということでしょうか。せめて年間 2，000m～3，000mは開設していただきたい。P60

(11)　主な取組に「海上自衛隊の入港・誘客」を追加して欲しい。P7

(12)　高齢者でも機会があれば働きたいと考えている人は多い。高齢者の就労機会の拡大を進めるべきだと思う。例えば、シルバー人材センターの積極的な活用等に取り組んだらいいのではないか。P67

(13)　農地周辺の法面の環境整備が大きな負担となっている。負担軽減のための取組を計画中に追加することはできないか。また、用排水路の法面の整備についてもコンクリを張るなど負担軽減のための取組を追加していただきたい。(P56)

(14)　基本方針に「バイオマス発電のための木材の利用推進」という文言を追加していただきたい。佐伯市では寿命を迎える広葉樹が増加しており、倒れた木々や木々のあった土地が災害につながる可能性を持つため、伐採してそれを再利用することができるのではないのかと考える。(P59)

(15)　事業承継について、今年度は倒産 34 件、廃業が 300 件近くあると聞いている。その状況に対し、国が対策を講じることを示しているので、佐伯市、商工会も連携するが、国の補助を利用して事業承継を促進できるよう対策していただきたい。

5　まちづくり分野

（1）　地域おこし協力隊は契約満期の後定住してもらうように採用を行っているのか。(P19)
定着率の低い原因を把握しているのか？私たちは、給料以上の仕事をして、給料以上のことが喜びとなって返ってくる。これが人間としての生きる喜びだと教えられた。採用の際に協力隊としての志を認識してもらうこと。あるいは、任期中に志を持てるような取組を考えるべき。協力隊が志と目標を持って活動すれば、任期満了後には、佐伯に定着すると思う。

（2）　食のまちづくりの東九州バスク化構想などにも力を入れてほしい。実現のためのどういった取組が必要か考えてほしい。(P19)

（3）　国際交流について、姉妹都市等との関係をどうしていくのかを考えてもらいたい。(P19)

（4）　宮崎県綾町は 40 年間人口の減少がなく、近年はこどもの数も増えている。それは地道な取組を長い期間継続して行っていることでなしえている。(自治公民館制度や、有機農業等)
それが綾町の印象を良くし、子育て世代などの移住につながっているということを学んだ。佐伯市も今年エコパーク認定を受けたので、これを機に先進事例を学びながら、佐伯ならではの地に足のついた取組を、10 年といわず、長い期間での取組が必要と感じる。

6　地域活性化分野

宇目地域はもともと交通の便が悪いが、ユネスコエコパーク認定を契機に、不便でも行ってみたいと思われるような地域にしていきたい。

7　人材育成

（1）　災害に強いまちづくり（P13）の防災士の育成について、市民全員が知識や能力を身につける必要があると考える。幼稚園、小中高の教育課程上に防災に関する能力を育成するためのプログラムを導入することができれば行っていただきたい。大人に対する教育よりも子どもたちに対しての教育を充実してほしい。

（2）　若い世代の育成を最優先に行ってほしい。防災面でみれば、海岸部の小学校等は震災時に一番に被害にあう。そのための知識の習得を行ってもらいたい。防災士だけではなく、市民救命士の育成を行ってはどうか。

（3）　人生100年の時代となった。シニア世代の教育プログラムを盛り込んでみてはどうか？70歳からのプログラム。

（4）　地域で支える福祉活動の推進（P15）の認知症施策について、進度は人により様々、見守りのために子どもの目や力を利用できる仕組みを作ってもらいたい。

（5）　佐伯市民の具体的なあり方を示すような取組をしてほしい。人間関係・リーダーシップの構築が必要だと感じる。年代ごとに目指すべきゴールを明確にすることで、計画の進行が着実に行えると考える。

（6）　佐伯市の現状を認識し、打開策を考えることが最優先であると感じる。加えて、若い人間が10年後に佐伯を支えてくれるのかが不安な点。若年層が佐伯を背負ってくれるようなまちづくりを行う必要があると強く感じる。人口減少が進む中で、減少率の小さくなるような取組が必要。総合計画を策定する中での本当の目的を定め、実現するような活動を行うことが必要と思う。

（7）　佐伯市における人材育成関連事業について、佐伯市にいる未青年を対象とした事業が少なく、逆に佐伯を出てしまう可能性のある社会人に向けた事業が充実されている。佐伯の若い人、特に未成年の人たちに「佐伯プライド」を持ってもらうため、佐伯の歴史やゆかりのある人物を学んでもらうことが有効と思う。私たちも知らないような佐伯のことを学ぶ機会を設け、地元への愛着を生み出すことができると思う。

（8）　人材育成を行う中で最大の目標は、佐伯を離れていたとしても、「佐伯を誇れる人間」を育てることだと思う。先ほど話に出たような学習を「佐伯学」として中等教育の教科に盛り込むことはできないか。

8　全般

（1）　計画策定後も、今回の様な民間委員を計画見直しの場に立たせていただきたい。

（2）　こういった議論の場を中高生などの若い人たちに見せるのはどうか。

（3）　市民会議の内容は素晴らしいものがあった。横断的な組織や取組を行ってもらいたい。それは民間も同様。「ユニバーサルデザイン」の考え方については、ハード・ソフト、分野を問わず、共通の取組を行ってほしい。